



組織名	農事組合法人ファーム こぐりやま 小栗山（代表：三沢 孝喜）	農業地域類型	中間農業地域
経営理念	新しいことに一步踏み出して楽しい農業を実現する	社員等	構成員25名、常時雇用4名
経営面積	44.9ha（水稻37.0ha、大豆7.4ha、アスパラガス0.5haハウス2棟（約6,000㎡）		

1. 経緯

- 平成14年、見附市小栗山町において、大豆栽培を目的とした小栗山転作生産組合を設立した。コメ中心の生産組織に移行した後、対外的な信用力を高めるため、平成19年に（農）ファーム小栗山を立ち上げた。
- 前代表は「**これからの経営はコメと大豆だけでは厳しくなる**」と**危機感**を持っていたため、経営の柱となる作物の導入を提案。イチゴの施設栽培等を検討するなかで、平成21年にアスパラガスの露地栽培を開始した。
- 平成25年、前代表の抜擢により、他産業で**経営管理の経験を持つ地元出身の役員が、45歳で代表**に就任。
- 代表は、平成30年に**アスパラガスのハウス栽培**を取り入れて生産性を高めるとともに**営業力や人的ネットワークを活かし、積極的に販路を開拓**。
- 令和2年、労働力を確保するためハローワーク等を通じて20代～50代の3名を雇用。
- 現在、代表と従業員4名が基幹的な農作業を担っている。

2. 課題と対策

- アスパラガスの栽培面積を増やしたいが、コメの作業との競合や選別に手間がかかり労働力が不足している。
- 県立農業大学校の**インターンシップを受け入れ、若者の就職先として働きかけ**を行っている。（20歳の若者1名を雇用）



皮まで柔らかい「極太アスパラガス」



「長期立茎栽培方法」により9月末まで収穫可能



消費者目線でサイズも豊富



（農）ファーム小栗山



特別栽培米の「獅子舞（ししまい）」



代表を中心にこだわりの米作り



3. 特徴的な取組や工夫していること

- アスパラガスは、**先進的な農業者等から指導を仰いで技術を習得**したことや品種特性を活かした栽培により品質の向上と年間5トンの収量を確保している。
- 独自ブランドの「極太グリーンアスパラガス」は1本80g**あり、太くても柔らかく「春どり」は皮まで柔らかい。消費者のニーズに合わせて、**超極太、極太、中太、ふつうのサイズにすることで購買意欲**を高めている。
- コメは、首都圏のレストラン等へ精米を直売**するとともに、集荷業者経由で**アメリカやイタリアへ輸出**している。首都圏からの引き合いが多い場合には、**地域の農業者から買い取って農業者の所得向上**につなげている。
- コメの移植栽培は育苗等に手間や経費がかかるため、**一部を湛水直播栽培にして省力化・低コスト化**を図っている。発芽不良はあるが、独自で研究を重ねたことにより、**移植栽培並みの収量に近づいている**。
- 中山間地域の特性を活かした**特別栽培米の「獅子米（ししまい）」**は、県産のブランド米に埋もれないよう、**伝統芸能の獅子舞（ししまい）に由来した商品名でPRし、地域を語る戦略**にしている。

4. 今後の目標

- 集荷業者経由の間接輸出では利益率が低いため、**見附市の農業者からコメを集めてロットを確保し、直接輸出を目指す**。
- 湛水直播栽培を全面的に取り入れる**など、省力化・低コスト化が図られる新しい技術を積極的に取り入れて、作業負担の低減や**儲けが実感できる「楽しい農業」**を構築する。
- 湛水直播栽培の確立により、**機械好きの若者に就職先として選んでもらえる会社**を目指す。